

1-2 安全目標

1 2009 年度 安全目標

『有責事故ゼロ』の継続

1978年1月20日に十三駅4号線ホームにおいて発生した扉引きずり死亡事故から11,484日(7月1日現在)が経過しました。

この事故は、扉操作における安全確認が不十分にも関わらず出発し、扉に挟まれたお客様を引きずり転倒させた後、軌道内に転落させ、お亡くなりなるとい痛ましい事故でした。関係する方々に対しまして、多くの悲しみを与えたことを、決して風化させてはならないと徹底を図っています。

その後、約30年間、有責事故(当社に過失があり、お客様が死傷した鉄道運転事故報告規則で定める鉄道運転事故)は発生しておりませんが、2008年度は、甲陽線において列車脱線事故やインシデントが発生しており、危機感を持って確実な安全運行に努めてまいります。

そのため我々は、この大きな目標を途絶えさせないためにも、今年度も『有責事故ゼロ』の継続を安全目標に掲げ、事故の防止に全力で取り組みます。



安全考学室展示パネル

2 2009 年度 安全方針

2009年度は2007年度に策定した6年に及ぶ中期経営計画の3年目であり、また、安全目標の達成のため、引き続き「社会に信頼される安全・高品質なサービスの提供」を安全方針に掲げ、《1》～《3》の3項に対して、それぞれ詳細な計画を策定して実施してまいります。

「社会に信頼される安全・高品質なサービスの提供」

～ 「安心・快適」阪急電鉄 ～

1 安全意識の高揚・安全対策

2 安全性向上対策

3 本社内グループ会社と一体となった人材育成・技術伝承